

第1学年 国語 観点別学習状況の評価規準

評価の観点		学びに向かう力・人間性	思考・判断・表現力	知識・技能
配分				
具体的 評価資料		授業態度・提出物・発言・ワークシート・ノート	学習活動における話し合い・発表の様子 ワークシート・作文・レポート・聞き取りテスト ノート・定期考査・ワーク	小テスト・漢字コンテスト・定期考査・書写 書き初め・ワークシート
領域	単元			
	音声に 敏感に 聴き 分け る	音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようしたり、声を届けようしたりしている。		・聞き手を意識して、速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫している。 ・情景や心情を表す表現に応じて、音読のしかたを工夫している。
	学 び を ひ ら く	場面の展開について、描写を基に積極的に捉え、学習課題に沿って感想を交流しようとしている。 進んで記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、学習課題に沿ってメモを取ろうとしている。 学習課題に沿って、積極的に情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使おうとしている。 集めた材料を粘り強く整理し、学習の見通しをもってわかりやすく説明しようとしている。 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。	「読むこと」→場面ごとに会話や描写を整理して、登場人物の心情や関係の変化を捉えている。 ・「話すこと・聞くこと」→日常の話題について、情報を整理し、聞き取る内容を考えている。情報を的確に聞き取り、要点を押さえてメモしている。 「書くこと」→目的や相手を意識して、情報を集めて整理し、説明の文章の構成を考えている。	・登場人物の心情や行動を表す言葉に着目して作品を読み進めている。事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・5W1Hに注意して、キーワードとなる言葉を書き留め、番号や記号を用いて整理している。 ・情報の整理のしかたを理解し、情報を比較したり、分類したりしている。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使い、集めた情報を観点に沿って比較したり、共通点を見つけて分類したりして整理している。 ・漢字の組み立てと部首について理解し、漢和辞典を使って調べている。
	新 し い 視 点 で	文章の中心的部分と付加的部分について積極的に捉え、学習課題に沿って筆者の工夫を伝え合おうとしている。 進んで要旨を把握し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。 学習課題に沿って、積極的に意見と根拠の関係について理解しようとしている。 話の構成を粘り強く考え、学習の見通しをもってスピーチをしようとしている。 ・単語の類別を理解するために、今までの学習を生かして、積極的にその前提となる言葉の単位について理解しようとしている。	「読むこと」→「問い」と「答え」から中心的部分を捉え、筆者の主張を理解している。 「読むこと」→序論・本論・結論の段落のまとまりに着目し、要旨を捉えている。 「話すこと・聞くこと」→聞き手を意識して話題を決め、話の内容を選んで整理している。聞き手を想定し、伝えたいことが明確になるように、構成を考え、話す順番を工夫している。	・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、本文中で比較がどのように使われているかを理解している。 ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解し、筆者の主張と事例との関係を理解している。 ・筆者の主張と事例との関係を理解している。 ・説得力のある根拠や、意見と根拠の結び付きについて理解している。 ・声の大きさ、話す速さ、間の取り方などに注意しながらスピーチをしている。 ・文法の必要性を知り、言葉の単位とその働きについて理解している。
	情 報 社 会 を 生 き る	引用のしかたや出典の示し方について積極的に理解を深め、学習課題に沿ってそれらを使おうとしている。	・「書くこと」→目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、本やインターネットを活用して情報を集め、整理し、伝えたいことを明らかにして書いている。 ・「読むこと」→必要な情報に着目して要約し、内容を理解している。	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深めている。グラフや文章の中の情報を関連づけて情報を整理し、引用のしかたや出典の示し方を理解している。

	言葉に立ち止まる	文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって詩を創作しようとしている。 ・進んで要旨を把握し、学習課題に沿って言葉について考えを深めようとしている。 今までの学習を生かして、積極的に指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めようとしている。 ・今までの学習を生かして、積極的に事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使おうとしている。	・「読むこと」→詩に描かれている情景を想像し、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 ・「書くこと」→自分の思いが読み手に伝わるように、言葉や表現を工夫して詩を書いている。 ・「読むこと」→各段落の役割を理解し、要旨を捉えている。	・詩の中の語句の意味を捉えながら、語感を磨き、語彙を豊かにしている。 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し、表現を工夫して詩を書いている。 ・文中で使われている比喩の文脈上の意味を理解している。 ・指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。 ・言葉を集め、似た意味の言葉や修飾する言葉を考え、伝えたいことに合う的確な言葉を探している。
	読書生活を豊かに	・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを進んで理解し、今までの学習を生かして本の魅力や感想を伝え合おうとしている。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、積極的に自分の考えを確かなものにし、学習課題に沿って本を読んで考えたことを伝え合おうとしている。	「読むこと」→文章を読み、理解したことを基に、自分の考えを形成している。	・さまざまな読書の楽しみ方について理解し、読書が知識を得たり、新しいものの見方や考え方を知ったり、自分の考えを広げたりすることに役立っていることを理解している。
	心の動き	・登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもって朗読しようとしている。 ・進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝え合おうとしている。 ・進んで記録したり質問したりしながら、話の内容を捉え、今までの学習を生かして話を引き出そうとしている。 ・集めた材料を積極的に整理し、学習課題に沿って案内文を書こうとしている。 ・粘り強く文章を整え、学習課題に沿って案内文を推敲しようとしている。 ・今までの学習を生かして、積極的に共通語と方言の果たす役割について理解しようとしている。 ・学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。	「読むこと」→描写に着目して、場面の展開や登場人物の相互関係、登場人物の行動や心情の変化を、描写を基に捉えている。 「読むこと」→場面ごとの状況や、場面と人物などの描写を結び付けて、内容を読み深めている。 「話すこと・聞くこと」→話し手のスピーチに耳を傾け、聞いたことを基に、質問のしかたを工夫して聞き、対話をしながら話を十分に理解しようとしている。共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。 「書くこと」→伝えたい事柄・相手に応じて、必要な情報が明確に伝わるように、項目ごとに整理して案内文を書いている。 「書くこと」→読み手の立場に立って、誤記はないか、表現は適切か、伝える情報が正確にわかりやすく書けているかななどを検討し、文章を整えている。	・戦時中という時代背景や、その中で暮らす人々の生活苦を理解している。 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し、様子や動きを何かにたとえた表現を探し、どのような情景や気持ちをたとえているのか考えている。 ・音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) →話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などに注意しながらスピーチをしている。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、情報を項目ごとに整理することを理解し、案内文の作成に生かしている。 ・文章の推敲を通して、正確でわかりやすい表現に書き改めている。 ・共通語と方言の役割や特徴について理解している。 ・漢字の音・訓について理解し、熟語を正しく読んだり、同じ熟語の音・訓の読み方を使って短い文を作ったりしている。
	筋道を立てて	・文章の構成や展開について粘り強く考え、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。 ・今までの学習を生かして、積極的に原因と結果の関係について理解しようとしている。 ・文章の構成や展開を粘り強く考え、学習の見通しをもってレポートを作成しようとしている。 ・進んで話題の展開を捉え、学習課題に沿って話し合いにおける発言のしかたについて考えようとしている。 ・積極的に互いの発言を結び付けて考えをまとめ、学習の見通しをもってグループ・ディスカッションをしようとしている。 ・進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして朗読しようとしている。	「読むこと」→文章の構成や展開をとらえ、筆者の意見と、それを支える根拠との関係を考えている。 「書くこと」→書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して、自分の考えに説得力をもたせるようなレポートの構成を考えている。自分の考えを裏づける資料やデータを選び、アンケートで得られた情報を適切に関連づけて、考察を導き出し、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 ・「話すこと・聞くこと」→話題や展開を捉えながら話し合うために気をつけることを理解し、課題に沿って発言内容を考えている。 ・「話すこと・聞くこと」→話し合いの話題や展開を捉え、互いの発言を結び付けながら考えをまとめている。 ・「読むこと」→繰り返しの表現や繰り返しながら変化している表現などに着目しながら考えている。	・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解し、筆者がどのような事実を基にどのような仮説を立てたかについて、理解している。 ・原因と結果がどうつながっているか整理し、二つの関係について理解している。 ・比較や分類、関係づけなどについて理解を深め、情報を整理し、自分の考えを裏づける資料やデータを選び、出典の示し方に気をつけながら引用している。 ・「根拠を述べる」「前の人の意見を受けて話す」「自分の意見と比較しながら聞く」「意見を整理する」「話がそれたときは元の話題に戻す」を理解している。 ・意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →自分の考えをまとめる際に、意見に対する根拠を考えている。 ・詩の言葉がどのように使われているか考えて、朗読をしている。

	いにしえの心につれる	・古典にはさまざまな種類の作品があることを積極的に知り、今までの学習を生かして古文を音読しようとしている。 ・進んで古文を音読し、学習課題に沿って描かれている古典の世界を想像しようとしている。 ・積極的に漢文を音読し、今までの学習を生かして故事成語を使った文章を書こうとしている。	「読むこと」→場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。登場人物の関係や思いに着目して読み、現代の自分たちと比べ、古典の世界と現代の人々に共通する部分を考えている。 ・「読むこと」→故事成語を調べ、どんな意味に使われるようになったか説明している。 ・「書くこと」→文章と自分の体験とを重ねて、書く内容の中心が明確になるように文章の展開や構成を考えている。	・音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、言葉の調子や間の取り方などを意識して音読している。 ・小学校から親しんできた古典の作品を思い起こし、古典にはさまざまな種類の作品があることを理解している。 ・音読に必要な文語のきまり、古文特有のリズムについて理解し、その世界に親しんでいる。 ・音読に必要な文語のきまり、漢文特有のリズムや言い回しなどについて理解している。
	価値を見いだす	・積極的に必要な情報に着目して要約し、自分の考えを文章にまとめようとしている。 ・読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を進んで見だし、学習課題に沿って書評を書き、助言し合おうとしている。 ・単語の類別を理解するために、今までの学習を生かして、積極的にその前提となる文の組み立てについて理解しようとしている。	・「読むこと」→目的に沿って必要な情報を結び付け、要約している。賛成か反対か、立場を明確にして、筆者の主張に対する自分の考えをまとめている。 ・「書くこと」→立場を明確にして、自分の考えの根拠となる事例を挙げながら、意見をまとめて書いている。 ・「書くこと」→読み手からの助言を踏まえて、自分の書いた書評のよい点や改善点を見つけている。	・原因と結果、意見と根拠の関係に着目して、必要な情報を取り出し、整理している。 ・要約するための情報の整理のしかたを理解し、自分の考えをまとめるときに要約や引用を明確に示している。 ・書評を書き、助言し合う活動を通して、読書の意義を理解している。 ・「文節どうしの関係」「連文節」「文の組み立て」について、理解を深めている。
	読書に親しむ	読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを積極的に理解し、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。	「読むこと」→筆者のものの見方や考え方が表れている部分に線を引き、考えたことをグループで発表し合う活動を通して、自分の理解を確かなものになっている。	・読書が知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。
	自分を見つめる	・文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって別の人物の視点から文章を書き換えようとしている。 ・今までの学習を生かして、積極的に単語の類別について理解しようとしている。 ・進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈し、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。 ・粘り強く文章の構成や展開を考え、学習の見通しをもって随筆を書こうとしている。 ・積極的に比喻、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し、学習課題に沿ってそれらを使おうとしている。 集めた材料を積極的に整理し、今までの学習を生かして要点をフリップにまとめ、発表しようとしている。 文章を読んで理解したことに基づいて、積極的に自分の考えを確かなものにし、考えたことを伝え合おうとしている。	・「読むこと」→文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。時間・場所・出来事・語り手に着目して作品の構成や展開を捉えたり、具体的な表現を挙げてその効果について自分の考えをまとめたりしている。登場人物の考え方や感じ方について、自分の考えをもっている。 ・「書くこと」→書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。別の人物の視点から、その人物の心情や行動が明確になるように構成や展開を工夫して書いている。 ・「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、筆者の思いを捉えている。 ・「書くこと」→読み手に状況がイメージできるように、書く内容の中心が伝わるように、構成を工夫している。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるよう、書きだしや結び、出来事を、言葉を吟味し、描写を工夫して書いている。 ・「話すこと・聞くこと」→聞き手や場に応じて、発表の言葉や表現を変えるなどの工夫をしている。 ・「書くこと」→目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、情報を集め整理し、内容が伝わる端端的な言葉をフリップに書いている。 ・「読むこと」→詩の解釈を通して理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。	・場面描写の言葉や登場人物の心情を表す言葉に着目している。 ・「単語の分類」「品詞」「体言と用言」について、理解を深めている。 ・語感を磨き語彙を豊かにし、詩の中で心情や情景がどのように表現されているかを理解している。 ・体験や思いを伝えるために、情景や心情を表す言葉を適切に選んで使っている。 ・比喻、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。 ・声の大きさ、話す速さ、間の取り方などに注意しながら発表をしている。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、要点をわかりやすくフリップにまとめている。 ・詩に用いられている表現の技法を理解し使っている。

令和7年度		台東区立浅草中学校		
第1学年 社会科		観点別学習状況の評価規準		
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
配分				
具体的評価資料		ワークシート、小テスト、定期考査	ワークシート、小テスト、定期考査	ワークシート、小テスト
領域	単元			
地理	世界の姿・日本の姿	○緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解している。 ○我が国の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を大観し理解している。	○世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。 ○日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。	○世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ○日本の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
	人々の生活と環境	○囚々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解している。 ○世界各地における人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性を理解している。その際、世界の主な宗教の分布についても理解している。	○世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。	○世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
	世界の諸地域	○世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。 ○アジア州・ヨーロッパ州・アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州・オセアニア州の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地的特色を大観し理解している。	○アジア州・ヨーロッパ州・アフリカ州・北アメリカ州・南アメリカ州・オセアニア州の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	○世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
配分				
歴史	古代までの日本	○世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解している。 ○日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷(大和政権)による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解している。 ○律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを基に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解している。 ○仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解している。	○古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の古代文明や宗教のおこり、日本列島における国家形成、律令国家の形成、古代の文化と東アジアとの関わりについて、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ○古代までの日本を大観して、時代の特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。	古代までの日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	中世の日本	○鎌倉幕府の成立、元寇(モンゴル帝国の襲来)などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。 ○南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。 ○農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。	○武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立とユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ○中世の日本を大観して、時代の特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。	○中世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

0 章 算数から数学へ（4 時間）

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自然数、素数、素因数分解の意味を理解している。 ・素因数分解の一意性を理解し、自然数を素因数分解することができる。	・自然数をいくつかの数の積で表すことにより、整数の性質を見いだし表現することができる。	・自然数をいくつかの数の積で表すことにより、整数の性質を見いだそうとしている。

毎時の評価規準

節	項	時	目標	学習活動	評価規準		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 整数の性質	九九表のきまりを見つけよう (教科書 p. 11～13)	1	九九表の数の並びから、いろいろなきまりを見だし、説明することができる。	・九九表の数の並びから、いろいろなきまりを見だし、説明する。 ・九九表を縦 2 ます横 2 ますの正方形で囲むと、斜めの数どうしの積が等しくなることを確かめる。		○九九表の数の並びから、いろいろなきまりを見だし、説明することができる。	○自然数をいくつかの数の積で表すことにより、整数の性質を見いだそうとしている。
	整数の性質 (教科書 p. 14～18)	2	素因数分解の意味を理解する。	・九九表を縦 2 ます、横 2 ますの正方形で囲むと、斜めの数どうしの積が等しくなる理由を説明する。 ・素因数分解の意味を知る。 [用語・記号] 自然数、素数、素因数分解する	○素因数分解の意味を理解している。	○九九表を縦 2 ます、横 2 ますの正方形で囲むと、斜めの数どうしの積が等しくなる理由を考え、説明することができる。	
		3	素因数分解の一意性や累乗の意味を理解し、自然数を素因数分解することができる。	・素因数分解の方法を考え、どんな順序で行っても同じ結果になることを知る。 ・九九表の数を素因数分解し、どんな数の積で表されるかを調べる。 [用語・記号] 2 乗、3 乗、平方、立方、累乗、指数	○素因数分解の一意性や累乗の意味を理解し、自然数を素因数分解することができる。	○九九表の数を素因数分解した結果から、九九表の数は、素数の 2、3、5、7、それらの積と 1 だけでつくられていることを見だし、説明することができる。	
		4	自然数を素因数分解した式から、もとの数の約数や、もとの数がどんな数の倍数であるかを求めることができる。	・自然数を素因数分解した式から、もとの数の約数や、もとの数がどんな数の倍数であるかを求める。	○自然数を素因数分解した式から、もとの数の約数や、もとの数がどんな数の倍数であるかを求めることができる。		

1 章 数の世界をひろげよう【正負の数】（25 時間）

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・正負の数の必要性和意味を具体的な場面と結びつけて理解している。 ・正負の数の大小関係や絶対値の意味を理解している。 ・正負の数の四則計算をすることができる。 ・具体的な場面で正負の数を用いて表したり処理したりすることができる。	・算数で学習した数の四則計算と関連づけて、正負の数の四則計算の方法を考察し表現することができる。 ・数の集合と四則計算の可能性について捉え直すことができる。 ・正負の数を活用して様々な事象における変化や状況を考察し表現することができる。	・正負の数のよさに気づき粘り強く考えようとしている。 ・正負の数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・正負の数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

毎時の評価規準

節	項	時	目標	学習活動	評価規準		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 正負の数	小さい数から大きい数をひくには？ (教科書 p. 19～21)	1	正負の数の必要性和意味を理解する。	・ひき算の九九表を完成させるためには、どんな数が必要であるかを考える。 ・0 より小さい数を身のまわりから探し、気温を例にして「－」のついた数がどんなことを表しているかを考える。 ・＋、－の符号や正の数、負の数の意味を知る。 [用語・記号] ー、マイナス、＋、プラス、正の符号、負の符号、正の数、負の数	○正負の数の必要性和意味を、具体的な場面と結びつけて理解している。		○正負の数の必要性和意味を考えようとしている。
	1 符号のついた数 (教科書 p. 22～24)						
		2	反対の性質をもつ量や基準とのちがいを、正負の数を用いて表すことができる。	・反対の性質をもつ量や基準とのちがいを、正負の数を使って表す。 ・正負の数で表された数量の意味を読みとる。	○反対の性質をもつ量や基準とのちがいを、正負の数を使って表したり、正負の数で表された数量の意味を読みとったりすることができる。		
	2 数の大小 (教科書 p. 25～27)	3	正負の数を数直線上に表すことができる。また、数直線を使って正負の数の大小を考え、その関係を不等号を使って表すことができる。	・算数で学習した数直線を負の数の範囲にひろげる。 ・正負の数を数直線上に表す。 ・数直線を使って正負の数の大小を考え、その関係を不等号を使って表す。 [用語・記号] 原点、正の方向、負の方向	○数直線上の位置と正負の数の大小の関係を理解している。 ○数直線を使って正負の数の大小を考え、その関係を不等号を使って表すことができる。		○正負の数の大小関係を考えようとしている。
		4	絶対値の意味を理解し、絶対値をもとにして正負の数の大小を考え、その関係を不等号を使って表すことができる。	・絶対値をもとにして正負の数の大小を考え、不等号を使って表す。 [用語・記号] 絶対値	○絶対値の意味を理解し、絶対値を求めることができる。 ○絶対値をもとにして正負の数の大小を考え、その関係を不等号を使って表すことができる。		
	基本の問題 (教科書 p. 28)						

2 加法と減法	正負の数のたし算はどうなるのかな？ (教科書 p. 29)	5	東西への移動をもとにして、正負の数の加法の意味を考えることができる。	・東西への移動をもとにして、正負の数で、2つの数のたし算を考える。 ・加法の意味を知る。 [用語・記号] 加法	○正負の数の加法の意味を理解している。	○正負の数の加法を、東西への移動をもとにして考え、説明することができる。	○正負の数の加法の計算方法を考えようとしている。	
	1 加法 (教科書 p. 30～33)		6	正負の数の加法の計算ができる。	・同符号、異符号の数の加法について、加えた 2 つの数と和の符号や絶対値に着目して、計算方法を考える。 ・正負の数の加法の計算をする。 ・0 との加法について考える。 ・分数や小数の加法の計算をする。	○正負の数の加法の計算方法を理解し、計算ができる。		○同符号、異符号の数の加法について、加えた 2 つの数と和の符号や絶対値に着目して、計算方法を見だし、説明することができる。
			7	正負の数では、加法の交換法則と結合法則が成り立つことを理解し、いくつかの数の加法をくふうして計算することができる。	・算数で学習したたし算の計算法則が、正負の数でも成り立つかどうかを調べる。 ・加法の交換法則、結合法則を利用して、いくつかの数の加法を計算する。 [用語・記号] 加法の交換法則、加法の結合法則	○正負の数では加法の交換法則と結合法則が成り立つことを理解し、いくつかの数の加法をくふうして計算できる。		
	2 減法 (教科書 p. 34～36)	8	正負の数の減法の意味を、加法をもとにして考え、理解することができる。	・減法を加法の逆算とみて、正負の数で、2つの数のひき算を考える。 ・減法の意味を知る。 ・数直線を使って、正負の数の減法の計算方法を考える。 [用語・記号] 減法	○正負の数の減法の意味を理解している。	○算数で学習したひき算と関連づけて、正負の数の減法を、数直線を使って考え、説明することができる。	○正負の数の減法の計算方法を考えようとしている。	
		9	正負の数の減法を、加法になおして計算することができる。	・正負の数の減法の計算をする。 ・0 からある数をひくこと、ある数から 0 をひくことについて考える。 ・分数や小数の加法の計算をする。	○正負の数の減法の計算方法を理解し、計算ができる。			
	3 加法と減法の混じった計算 (教科書 p. 37～39)	10	正負の数の加法と減法の混じった式を、項の和とみることができる。	・正負の数の加法と減法の混じった式を、項の和とみる。 ・正負の数の加法と減法の混じった式を、項を書き並べた式に表す。 [用語・記号] 項	○正負の数の項の和の意味を理解している。	○正負の数の加法と減法の混じった式を、項の和とみることができる。	○正負の数の加法と減法の混じった式の計算の方法を考えようとしている。	
		11	正負の数の加法と減法の混じった式の計算ができる。	・正負の数の加法と減法の混じった式の計算をする。	○正負の数の加法と減法の混じった式の計算方法を理解し、計算ができる。			
	基本の問題 (教科書 p. 40)	12						

3 乗法と除法	正負の数のかけ算はどうなるのかな？ (教科書 p. 41)	13	東西への移動をもとにして、正負の数の乗法の意味を考え、理解することができる。	・九九表を負の数の範囲にひろげて、2つの数のかけ算を調べる。 ・東西への移動をもとにして、正負の数で、2つの数のかけ算を考える。 ・乗法の意味を知る。 [用語・記号] 乗法	○正負の数の乗法の意味を理解している。	○正負の数の乗法を、東西への移動をもとにして考え、説明することができる。	○正負の数の乗法の計算方法を考えようとしている。		
	1 乗法 (教科書 p. 42～47)		14	正負の数の乗法の計算ができる。	・正負の数の乗法の計算をする。 ・小数や分数の乗法を計算する。 ・ある数と－1 との積を考える。 ・ある数と 1 や 0 との積を考える。	○正負の数の乗法の計算方法を理解し、計算ができる。		○東西に移動する場面で、0 をふくむ正負の数の乗法が表すことを説明することができる。	
				15	正負の数で、乗法の交換法則と結合法則が成り立つことを理解し、いくつかの数の乗法をくふうして計算することができる。	・算数で学習したかけ算の計算法則が、正負の数でも成り立つかどうかを調べる。 ・乗法の交換法則、結合法則を利用して、いくつかの数の乗法を計算する。 [用語・記号] 乗法の交換法則、乗法の結合法則		○正負の数では乗法の交換法則と結合法則が成り立つことを理解し、いくつかの数の乗法をくふうして計算できる。	
					16	正負の数の累乗の計算ができる。		・正負の数の累乗の計算をする。	○正負の数の累乗の計算ができる。
	2 除法 (教科書 p. 48～51)	17	正負の数の除法を、乗法の逆算をもとにして考え、正負の数の除法の計算ができる。	・除法を乗法の逆算とみて、正負の数で、2つの数のわり算を考える。 ・除法の意味を知る。 ・0 をある数でわった商は 0 になること、0 でわる除法は考えないことを知る。 ・正負の数の除法の計算をする。 ・分子や分母が負の数の分数の表し方を考える。 [用語・記号] 除法	○正負の数の除法の計算方法を理解し、計算ができる。	○除法を乗法の逆算とみて、正負の数の除法の計算方法を考え、説明することができる。	○正負の数の除法の計算方法を考えようとしている。		
			18	正負の数の除法を、逆数を使って乗法になおして計算することができる。	・正負の数の逆数を考える。 ・正負の数の除法は、わる数の逆数をかけることと同じであることを確認する。 ・除法を乗法になおして計算する。 ・四則の意味を知る。 [用語・記号] 逆数、四則	○正負の数の除法は、わる数の逆数をかけることと同じであることを理解し、逆数を使って乗法になおして計算できる。		○誤りのある正負の数の除法の計算について、誤りを指摘することができる。	
	3 四則の混じった計算 (教科書 p. 52～53)	19	正負の数の四則の混じった計算ができる。	・正負の数の四則の混じった式を、計算順序にしたがって計算する。 ・算数で学習したかっこのある式の計算のくふうが、正負の数でも成り立つかどうかを調べる。	○正負の数の四則の混じった式の計算順序を理解し、計算ができる。		○正負の数の四則の混じった計算の計算方法を考えようとしている。		
			20	正負の数の分配法則を利用した計算ができる。	・分配法則を利用して、正負の数の計算をする。 [用語・記号] 分配法則	○正負の数では分配法則が成り立つことを理解し、分配法則を利用した計算ができる。			

	4 数の範囲と四則 (教科書 p. 54～55)	21	数の範囲と四則計算の可能性について調べ、その関係 を考えることができる。	・自然数どうしの加法、減法、乗法、除法 の表を完成させるためには、どんな数が 必要であるかを考える。 ・数の範囲とその範囲でいつでもできる 四則について調べる。		○数の集合と四則計算の可能性に ついて捉え直すことができる。	○数の範囲と四則計算の可能性の 関係を調べようとしている。
	基本の問題 (教科書 p. 56)	22					
4 正負の 数の 利用	身長をくふうし て求めてみよう (教科書 p. 57～58)	23	正負の数を利用して、身長 の平均をくふうして求める 方法を考え、説明すること ができる。	・身長を平均を、基準を決めてくふうして 求める方法を考え、説明する。 ・複数の考え方を比べて、似ているところ やちがうところを話し合う。	○具体的な場面で正負の数を使っ て表したり処理したりするこ とができる。	○正負の数を利用して、身長 の平均をくふうして求める方 法を考え、説明することがで きる。	○正負の数について学んだこと を生活や学習に生かそうとし ている。 ○正負の数を活用した問題解 決の過程を振り返って検討し ようとしている。
	1 正負の数の利用 (教科書 p. 59)	24	身のまわりの問題を、正負 の数を利用して解決するこ とができる。	・正負の数を利用して、売れたパンの個数 の平均をくふうして求める。 ・正負の数で表された前の地点との標高 差をもとにして、基準の位置との標高の ちがいを調べる。		○身のまわりの問題を、正負 の数を利用して解決するこ とができる。	
章の問題A (教科書 p. 60)		25					

2 章 数学のことばを身につけよう [文字と式] (18 時間)

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・文字を用いることの必要性和意味を理解している。 ・文字を用いた式における積や商の表し方を知っている。 ・文字を用いた式の文字に数を代入して、その式の値を求めることができる。 ・簡単な1次式の計算をすることができる。 ・数量の関係や法則などを、文字を用いた式に表すことができることを理解している。 ・数量の関係や法則などを、文字を用いた式を用いて表したり、読みとったりすることができる。	・具体的な場面と関連づけて、1次式の加法と減法の計算の方法を考察し表現することができる。 ・文字を用いた式を活用して、具体的な事象を考察し表現することができる。	・文字を用いることのよさに気づき粘り強く考えようとしている。 ・文字を用いた式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

毎時の評価規準

節	項	時	目標	学習活動	評価規準		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 文字を使った式	棒の本数を求めてみよう (教科書 p. 63～65)	1	正方形をつなげた棒の本数の求め方を自分なりの方法で考え、式や図を使って説明することができる。	- 正方形を 5 個つなげた棒の本数の求め方を考え、式や図を使って説明する。 - 正方形を 20 個つなげた棒の本数を求める。		○正方形をつなげた棒の本数の求め方を考え、式や図を使って説明することができる。	○正方形をつなげた棒の本数の求め方を考えようとしている。
	1 文字の使用 (教科書 p. 66～67)	2	文字を用いることの必要性和意味を理解し、具体的な数量を、文字を使った式で表すことができる。	- 文字を用いることの必要性和意味を知る。 - 具体的な数量を、文字を使った式で表す。 - 具体的な数量を表した文字が、どんな数の代わりとして使われているかを考える。	○文字を用いることの必要性和意味を理解している。 ○具体的な数量を、文字を使った式で表すことができる。	○具体的な数量を表した文字が、どんな数の代わりとして使われているかを考察することができる。	○文字を用いることの必要性和意味を考えようとしている。
	2 文字を使った式の表し方 (教科書 p. 68～72)	3	文字式での積の表し方にしたがって、式を表すことができる。	- 具体的な数量を、積の表し方にしたがって、文字を使った式で表す。 - 文字式での積の表し方にしたがって、式を表す。	○文字式での積の表し方のきまりを理解し、文字式での積の表し方にしたがって式を表すことができる。		
		4	文字式での累乗や商の表し方にしたがって、式を表すことができる。	- 文字式での累乗の表し方にしたがって、式を表す。 - 文字式での商の表し方にしたがって、式を表す。	○文字式での累乗の表し方のきまりを理解し、累乗の表し方にしたがって式を表すことができる。 ○文字式での商の表し方のきまりを理解し、商の表し方にしたがって式を表すことができる。		

		5	単位の異なる数量どうしの和や差を、単位をそろえた式に表すことができる。また、割合や速さに関する数量を、文字を使った式で表したり、文字を使った式が表す数量を読みとったりすることができる。	・単位の異なる数量どうしの和や差を、単位をそろえた式に表す。 ・割合に関する数量を、文字を使った式で表す。 ・速さに関する数量を、文字を使った式で表す。 ・文字を使った式が表す具体的な数量を、読みとる。	○単位の異なる数量どうしの和や差の表し方を理解し、単位をそろえた式に表すことができる。 ○割合に関する数量を、文字を使った式で表すことができる。 ○速さに関する数量を、文字を使った式で表すことができる。 ○文字を使った式が表す数量を、読みとることができる。		
		6	π の意味を理解し、円周の長さや円の面積を、文字を使った式で表したり、文字を使った式が表す数量を読みとったりすることができる。	・π の意味を知る。 ・円周の長さや円の面積を、文字を使った式で表す。 ・文字を使った式が表す具体的な数量を、読みとる。 [用語・記号] π	○π の意味とπを使った式の表し方のきまりを理解し、文字を使った式で表すことができる。 ○文字を使った式が表す数量を、読みとることができる。		
	3 代入と式の値 (教科書 p. 73～74)	7	文字に数を代入することや式の値の意味を理解し、式の値を求めることができる。	・文字に数を代入することや式の値の意味を知る。 ・式の中の文字に数を代入して、式の値を求める。 [用語・記号] 代入する、式の値	○文字に数を代入することや式の値の意味を理解し、式の値を求めることができる。		
	基本の問題 (教科書 p. 74)	8					
2 文字式の計算	棒の本数を求める式は？ (教科書 p. 75)	9	棒の本数を求める式から、その求め方を読みとって、図を使って説明することができる。	・棒の本数を求める式を読みとって、その求め方を、図を使って説明する。		○棒の本数を求める式から、その求め方を読みとり、図を使って説明することができる。	○棒の本数を求める式から、その求め方を読みとって説明しようとしている。
	1 1次式の計算 (教科書 p. 76～81)	10	項と係数の意味を理解し、文字の部分が同じ項を 1 つの項にまとめることができる。	・項と係数の意味を知る。 ・文字の部分が同じ項を 1 つの項にまとめて簡単にする。 [用語・記号] 項、係数	○項と係数の意味を理解している。 ○文字の部分が同じ項を 1 つの項にまとめることができる。	○具体的な場面と関連づけて、1 次式の加法の計算方法を考え、説明することができる。	○1 次式の計算方法を考えようとしている。
		11	1 次式の加法や減法の計算ができる。	・1 次式の加法や減法の計算をする。	○1 次式の加法や減法の計算方法を理解し、計算ができる。	○具体的な場面と関連づけて、1 次式の減法の計算方法を考え、説明することができる。	
		12	1 次式と数の乗法の計算ができる。	・1 次式と数の乗法の計算をする。	○1 次式と数の乗法の計算方法を理解し、計算ができる。		

		13	1 次式と数の除法の計算ができる。また、分配法則を使って、1 次式のいろいろな計算ができる。	・1 次式と数の除法を乗法になおして計算する。 ・分配法則を使って、1 次式のいろいろな計算をする。	○1 次式と数の除法の計算方法を理解し、計算ができる。 ○分配法則を使って、1 次式のいろいろな計算ができる。		
	基本の問題 (教科書 p. 82)	14					
3 文字式の利用	棒の本数を求めてみよう (教科書 p. 83～84)	15	文字を用いた式を活用して、立方体をつなげた棒の本数を求める式を考え、その求め方を説明することができる。	・立方体をつなげた棒の本数を求める式を考え、その求め方を説明する。 ・複数の考え方をもとにした式を比べて、どのようなことがいえるかを話し合う。		○立方体をつなげた棒の本数の求め方を、正方形をつなげた棒の本数の求め方と関連づけて考え、式や図を使って表現することができる。	○文字を用いた式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
	1 数の表し方 (教科書 p. 85)	16	いろいろな整数を文字を用いた式で表したり、式が表す数を読みとったりすることができる。	・いろいろな整数を、文字を用いた式で表したり、式が表す数を読みとったりする。	○いろいろな整数を文字を用いた式で表したり、式が表す数を読みとったりすることができる。		
	2 数量の間の関係の表し方 (教科書 p. 86～87)	17	等式、不等式の意味を理解し、数量の間の関係を等式や不等式で表したり、等式や不等式が表す数量の関係を読みとったりすることができる。	・等式、不等式の意味を知る。 ・数量の間の関係を等式や不等式で表す。 ・等式や不等式が、どんな数量の関係を表しているかを考える。 [用語・記号] 等式、不等式、左辺、右辺、 $\geq$ 、 $\leq$	○等式と不等式の意味を理解している。 ○数量の間の関係を等式や不等式で表すことができる。 ○等式や不等式が表す数量の間の関係を読みとることができる。		○等式と不等式の必要性和意味を考えようとしている。
章の問題 A (教科書 p. 88)		18					

3 章 未知の数の求め方を考えよう【方程式】（14 時間）

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・方程式の必要性和意味を理解している。 ・方程式の解や等式の性質、移項の意味を理解している。 ・等式の性質の意味を理解し、等式の性質を用いて方程式を解くことができる。 ・移項の考えを用いて方程式を解くことができる。 ・簡単な1次方程式、比例式を解くことができる。 ・事象の中の数量やその関係に着目し、1次方程式をつくることができる。 ・1次方程式を用いて具体的な場面の問題解決を行うときの、解の吟味の意味と必要性を理解している。	・等式の性質をもとにして、1次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ・方程式において、移項できる理由を等式の性質をもとにして考察し表現することができる。 ・具体的な場面の問題において、1次方程式を活用し、問題を解決することができる。 ・具体的な場面の問題において、解を吟味して解答としてよいかどうかを判断することができる。	・方程式のよさに気づき粘り強く考えようとしている。 ・正負の数や文字を使った式で学んだことを生かして、方程式を効率的に解く方法を検討している。 ・方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

毎時の評価規準

節	項	時	目標	学習活動	評価規準		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 方程式とその解き方	りんごの個数を求めてみよう (教科書 p. 91～93)	1	数量を求める問題を、既習の内容を活用して解決することを通して、方程式の必要性を理解する。	・収穫したりんごの個数が何個あるかを、式や図を使って求める。		○求めたい数量を、既習の内容を活用して考え、その求め方を式や図を使って説明することができる。	○求めたい数量がある問題を、既習の内容を活用して考えようとしている。
	1 方程式とその解 (教科書 p. 94～97)	2	方程式とその解の意味を理解し、文字に値を代入して方程式の解を求めることができる。	・方程式とその解の意味を知る。 ・方程式の中の文字に値を代入して、解であるかどうかを確かめる。 [用語・記号] 方程式、（方程式の）解	○方程式とその解の意味を理解している。		○方程式の必要性和意味を考えようとしている。
		3	等式の性質を使って、方程式を解くことができる。	・方程式を解く方法を、てんびんの操作と結びつけて考える。 ・等式の性質を使って方程式を解く。 [用語・記号] 方程式を解く、等式の性質	○等式の性質を理解し、等式の性質を使って方程式を解くことができる。	○方程式を解く方法を、てんびんの操作と結びつけて考え、説明することができる。	
	2 方程式の解き方 (教科書 p. 98～99)	4	移項の意味を理解し、移項の考えを使って方程式を解くことができる。	・等式の性質を使って方程式を解く過程を振り返って、移項の考えを見いだす。 ・移項の考えを使って方程式を解く。 ・移項の考えを使って方程式を解く手順を確認する。 [用語・記号] 移項	○移項の意味を理解し、移項の考えを使って方程式を解くことができる。 ○移項の考えを使って方程式を解く手順を理解している。	○等式の性質を使って方程式を解く過程を振り返って、移項の考えを見いだし、説明することができる。	○方程式を効率的に解く方法を考えようとしている。

	3 いろいろな方程式 (教科書 p. 100～102)	5	かっこをふくむ方程式や、 係数に小数をふくむ方程式 を解くことができる。	・かっこをふくむ方程式を解く。 ・係数に小数をふくむ方程式を解く。	○かっこをふくむ方程式の解き方 を理解し、その方程式を解くこ とができる。 ○係数に小数をふくむ方程式の解 き方を理解し、その方程式を解 くことができる。			
		6	係数に分数をふくむ方程式 を解くことができる。また、 1 次方程式を解く手順を理 解する。	・係数に分数をふくむ方程式を解く。 ・1 次方程式を解く手順を確認する。 [用語・記号] 分母をはらう、1 次方程式	○係数に分数をふくむ方程式の解 き方を理解し、その方程式を解 くことができる。 ○1 次方程式を解く手順を理解し ている。			
	基本の問題 (教科書 p. 102)	7						
2 1 次方程式 の利用	プランターの間隔は何 cm？ (教科書 p. 103～104)	8	具体的な問題を、方程式を 利用して解決するときの考 え方や手順を理解する。	・プランターの間隔を、逆算の考えや方 程式を使って求め、それらの考えを比較す る。 ・方程式を利用して問題を解決するときの 手順を確認する。	○具体的な問題の中の数量やその 関係に着目し、1 次方程式をつく ることができる。 ○方程式を利用して問題を解決す るときの手順を理解している。	○1 次方程式を利用して、具体的 な問題を解決することができる。	○方程式を具体的な問題の解決に 利用しようとしている。 ○方程式を利用した問題解決の過 程を振り返ってその手順を検討 しようとしている。	
	1 1 次方程式の利用 (教科書 p. 105～108)	9	個数と代金に関する問題 を、方程式を利用して解決 することができる。	・個数と代金に関する問題を、方程式を利用 して解決する。				
		10	速さ・時間・道のりに関する 問題を、方程式を利用して 解決することができる。また、 求めた解が問題に適して いるかどうかを考え、説 明することができる。	・速さ・時間・道のりに関する問題を、方 程式を利用して解決する。 ・速さに関する問題で、求めた解が問題に 適しているかどうかを考える。 ・方程式を利用して問題を解決するときの 手順をまとめる。				○1 次方程式を利用して、具体的 な問題を解決することができる。 ○求めた解が問題に適しているか どうかを、問題の場面に戻って 考え、説明することができる。
		11	過不足に関する問題を、方 程式を利用して解決するこ とができる。	・過不足に関する問題を、方程式を利用し て解決する。		○1 次方程式を利用して、具体的 な問題を解決することができる。		
	2 比例式の利用 (教科書 p. 109～111)	12	比例式の性質を理解し、そ の性質を利用して文字の値 を求めたり、具体的な問題 を解決したりすることがで きる。	・比の値が等しいことを表す式を変形し て、比例式の性質を見いだす。 ・比例式の性質を利用して、文字の値を求 めたり、具体的な問題を解決したりす る。 [用語・記号] 比例式	○比例式の意味とその性質を理解 し、比例式の性質を利用して文 字の値を求めることができる。	○比例式の性質を利用して方程式 をつくり、具体的な問題を解決 することができる。 ○比例式の性質を見いだし、その 性質を説明することができる。	○比例式を具体的な問題の解決に 利用しようとしている。	
	基本の問題 (教科書 p. 111)	13						
章の問題 A (教科書 p. 114)	14							

4 章 数量の関係を調べて問題を解決しよう【比例と反比例】（22 時間）

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・関数関係、座標の意味を理解している。 ・比例、反比例について理解している。 ・比例、反比例を表、式、グラフなどに表すことができる。	・比例、反比例として捉えられる 2 つの数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだすことができる。 ・比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	・関数関係や比例、反比例のよさに気づいて粘り強く考えようとしている。 ・比例、反比例について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・比例、反比例を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

毎時の評価規準

節	項	時	目標	学習活動	評価規準		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 関数と比例・反比例	満水になるまでの時間を予想しよう (教科書 p. 117～119)	1	身のまわりの問題を、関数の考えを利用して解決することができる。	・水槽が満水になるまでの時間を予想するために、水槽の形や水槽に入れる水の量の変化など、どんなことがわかればよいかを考える。		○身のまわりの問題を、関数の考えを利用して解決することができる。	○関数の考えを生活や学習に生かそうとしている。 ○関数関係の意味や比例、反比例について考えようとしている。
	1 関数 (教科書 p. 120～123)		関数の意味及び変域の意味と表し方を理解し、変域を不等号を使って表すことができる。 また、2 つの数量の間に関数の関係があるかどうかを判断することができる。	・関数の意味を知る。 ・変域の意味と表し方を知る。 ・変域を不等号を使って表す。 ・2 つの数量の間に関数の関係があるかどうかを調べる。 ・関数の関係を「～は…の関数である」といういい方で表す。 [用語・記号] 変数、 y は x の関数である、変域	○関数の意味を理解している。 ○変域の意味と表し方を理解し、変域を不等号を使って表すことができる。 ○2 つの数量の間に関数の関係があるかどうかを判断し、表現することができる。	○身のまわりの問題を、関数の考えを利用して解決することができる。	
		2	身のまわりの問題を解決するために、関数の関係にある 2 つの数量を見つけることができる。	・シュレッダーで裁断された紙の量と関数の関係にある数量を考える。		○シュレッダーで裁断された紙の量を求めるために、関数の関係にある数量を見つけることができる。	
		3	比例の意味を理解し、比例の関係を式に表すことができる。また、反比例の意味を理解し、反比例の関係を式に表すことができる。	・比例の意味を知る。 ・ y を x の式で表して、 y が x に比例するかどうかを調べる。 ・反比例の意味を知る。 ・ y を x の式で表して、 y が x に反比例するかどうかを調べる。 [用語・記号] y は x に比例する、比例定数（比例）、 y は x に反比例する、比例定数（反比例）	○比例の意味を理解し、比例の関係を式に表すことができる。 ○反比例の意味を理解し、反比例の関係を式に表すことができる。		

	基本の問題 (教科書 p. 126)	5					
2 比例の性質と調べ方	負の数の世界へひろげてみよう (教科書 p. 127)	6	x の変域や比例定数を負の数にひろげて、比例の性質が成り立つことを理解する。	・算数で学習した比例の性質やグラフの特徴を振り返る。 ・ x の変域や比例定数のとりうる範囲を負の数にひろげて、比例の性質が成り立つかどうかを調べる。	○ x の変域や比例定数を負の数にひろげて、比例の性質が成り立つことを理解している。		○数の範囲を負の数までひろげると比例の性質やグラフの特徴がどうかやその調べ方を考えようとしている。
	1 比例の表と式 (教科書 p. 128～129)						
		7	y が x に比例するとき、1 組の x 、 y の値から、比例の式を求めることができる。	・ x の変域や比例定数が負の数の場合をふくめた比例の式を考える。	○ y が x に比例するとき、1 組の x 、 y の値から、 y を x の式で表すことができる。		
	2 比例のグラフ (教科書 p. 130～135)	8	座標の意味や点の位置の表し方を理解し、点の座標を求めたり、座標を平面上の点で表したりすることができる。	・変域を負の数にひろげたときの比例のグラフをかくために、負の数も範囲に入れた点の位置の表し方を考える。 ・点の座標を求めたり、座標を平面上の点で表したりする。 [用語・記号] x 軸、 y 軸、座標軸、原点、 x 座標、 y 座標、座標	○座標の意味や点の位置の表し方を理解している。 ○点の座標を求めたり、座標を平面上の点で表したりすることができる。		
		9	比例のグラフは、その式をみたす点の集合であり、原点を通る 1 つの直線であることを理解する。また、比例のグラフの特徴を理解する。	・変域を負の数にひろげたときの比例のグラフがどのようなかを、点を細かくとって調べる。 ・比例定数が負の数の場合の比例のグラフをかく、正の数の場合との共通点やちがいを調べる。	○比例のグラフは、その式をみたす点の集合であり、原点を通る 1 つの直線であることを理解している。 ○比例のグラフの特徴を理解している。	○比例のグラフの特徴を見だし、説明することができる。	○変域や比例定数のとりうる範囲を負の数にひろげて、比例のグラフの特徴を捉えようとしている。
		10	比例について、 x の値が増加するときの y の値の変化の特徴を理解する。また、比例のグラフの特徴をもとに、グラフをかくことができる。	・比例について、 x の値が増加するときの y の値の変化の様子を、比例定数が正の数の場合と負の数の場合で、表やグラフを用いて調べる。 ・比例のグラフの特徴をもとに、グラフをかく。 ・比例の性質を調べる方法を振り返る。	○比例について、 x の値が増加するときの y の値の変化の特徴を理解している。 ○比例のグラフの特徴をもとに、グラフをかくことができる。	○比例について、 x の値が増加するときの y の値の変化の特徴を、表やグラフを用いて捉え、説明することができる。	○比例の値の変化の特徴を、表やグラフを用いて捉えようとしている。
	3 比例の表、式、グラフ (教科書 p. 136～137)	11	比例の表、式、グラフを関連づけて理解する。また、比例のグラフから式を求めることができる。	・比例の表やグラフから式を求める方法を考える。 ・比例の表、式、グラフのどこに比例定数があられるかをまとめる。 ・比例のグラフから式を求める。	○比例のグラフから式を求めることができる。	○比例の表やグラフから式を求める方法を考え、説明することができる。	○比例について学んだことを生かして、比例の表、式、グラフを関連づけて捉えようとしている。

	基本の問題 (教科書 p. 138)	12					
3 反比例の性質と調べ方	負の数の世界へひろげよう (教科書 p. 139)	13	x の変域や比例定数を負の数にひろげても、反比例の性質が成り立つことを理解する。	- 算数で学習した反比例の性質やグラフの特徴を振り返る。 x の変域や比例定数のとりうる範囲を負の数にひろげても、反比例の性質が成り立つかどうかを調べる。	○ x の変域や比例定数のとりうる範囲を負の数にひろげても、反比例の性質が成り立つことを理解している。		○数の範囲を負の数までひろげると反比例の性質やグラフの特徴がどうなるかやその調べ方を考えようとしている。
	1 反比例の表と式 (教科書 p. 140～141)						
		14	y が x に反比例するとき、1組の x 、 y の値から、反比例の式を求めることができる。	x の変域や比例定数が負の数の場合をふくめた反比例の式を考える。	○ y が x に反比例するとき、1組の x 、 y の値から、反比例の式を求めることができる。		
	2 反比例のグラフ (教科書 p. 142～145)	15	反比例のグラフは、その式をみたす点の集合であり、なめらかな2つの曲線であることを理解する。	変域を負の数にひろげたときの反比例のグラフがどのようなかを、点を細かくとって調べる。	○反比例のグラフは、式をみたす点の集合であり、なめらかな2つの曲線であることを理解している。	○反比例のグラフの特徴を見いだすことができる。	○変域や比例定数のとりうる範囲を負の数にひろげて、反比例のグラフの特徴を捉えようとしている。
		16	反比例のグラフの特徴を理解する。また、反比例のグラフをかくことができる。	- 比例定数が負の数の場合の反比例のグラフをかいて、正の数の場合との共通点やちがいを調べる。また、x の値を大きくしたり0に近づけたりするとグラフはどのようなかを調べる。 - 反比例のグラフをかく。 [用語・記号] 双曲線	○反比例のグラフの特徴を理解している。 ○反比例のグラフをかくことができる。		
		17	反比例の値の変化の特徴を理解する。	- 反比例について、x の値が増加したときの y の値の変化の様子を、比例定数が正の数の場合と負の数の場合で、表やグラフを用いて調べる。 - 反比例の性質を調べる方法を振り返る。	○反比例の値の変化の特徴を理解している。	○反比例について、 x の値が増加するときの y の値の変化の特徴を、表やグラフを用いて捉え、説明することができる。	○反比例の値の変化の特徴を、表やグラフを用いて捉えようとしている。
	3 反比例の表、式、グラフ (教科書 p. 146～147)	18	反比例の表、式、グラフを関連づけて理解する。また、反比例のグラフから式を求めることができる。	- 反比例の表やグラフから式を求める方法を考える。 - 反比例の表、式、グラフのどこに比例定数があらわれるかをまとめる。 - 反比例のグラフから式を求める。	○反比例のグラフから式を求めることができる。	○反比例の表やグラフから式を求める方法を考え、説明することができる。	○反比例について学んだことを生かして、反比例の表、式、グラフを関連づけて捉えようとしている。
	基本の問題 (教科書 p. 148)						

4 比例と反比例の利用	待ち時間を予想するためには？ (教科書 p. 149～150)	19	身のまわりの問題で、関数の関係にある数量を見だし、その関係を比例とみなして解決することができる。	・行列の待ち時間を予想するために、どんなことがわかればよいかを考える。 ・1 人がポップコーンを買うのにかかる時間を一定と考えて、並んでいる人数から待ち時間を予想する。		○具体的な事象で関数の関係にある数量を見だし、その関係を比例とみなして表現し、問題を解決することができる。	○比例、反比例について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○比例、反比例を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 ○2 つの数量の関係を、表や式、グラフに表すことのよさに気づいている。
	1 比例と反比例の利用 (教科書 p. 151～153)	20	身のまわりの問題を比例や反比例を利用して解決することができる。また、 $A=BC$ で表される関係において、それらの数量の間の関係を考えることができる。	・身のまわりの問題を、比例や反比例を用いて解決する。 ・$A=BC$ の式で、A、B、C のうち、1 つの変数の値を決めたとき、他の 2 つの変数の関係がどうなるかを調べる。		○具体的な事象の中の数量の関係が比例や反比例であることを見だし、問題を解決することができる。 ○ $A=BC$ で表される関係において、それらの数量の間の関係を考察することができる。	
		21	身のまわりの問題を、比例のグラフを利用して解決することができる。	・身のまわりの問題を、比例のグラフを利用して解決する。 ・比例のグラフから、具体的な事象を読みとる。	○比例のグラフから、具体的な事象を読みとることができる。	○具体的な事象の中の数量の関係を比例とみなして、そのグラフを利用して問題を解決することができる。	
章の問題 A (教科書 p. 154)		22					

5 章 平面図形の見方をひろげよう【平面図形】（17 時間）

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・平行移動、対称移動及び回転移動について理解している。 ・平面図形に関する用語や記号の意味と使い方を理解している。 ・角の二等分線、線分の垂直二等分線、垂線などの基本的な作図の方法を理解している。 ・おうぎ形の弧の長さと面積を求めることができる。	・図形の移動に着目し、2つの合同な図形の関係について考察し表現することができる。 ・線対称な図形の性質をもとにして、基本的な作図の方法を考察し表現することができる。 ・図形の移動や基本的な作図を具体的な場面で活用することができる。	・平面図形の性質や関係を捉えることのよさに気づき粘り強く考えようとしている。 ・平面図形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・図形の移動や基本的な作図を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

毎時の評価規準

節	項	時	目標	学習活動	評価規準		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 図形の移動	しきつめ模様をデザインしよう (教科書 p. 157～159)	1	しきつめ模様の特徴を図形の移動の見方で捉えたり、図形を移動させてしきつめ模様をつくったりすることができる。	・日本の伝統模様を合同な図形でしきつめられているとみたり、1つの図形を移動させて正六角形の模様をつくったりする。		○しきつめ模様の特徴を図形の移動の見方で捉えたり、図形を移動させてしきつめ模様をつくったりすることができる。	○2つの合同な図形の関係を移動の見方で捉えようとしている。
	1 図形の移動 (教科書 p. 160～167)	2	平行移動の意味とその性質を理解する。	・正六角形の模様の中の2つの図形の関係を移動の見方で観察し、平行移動について知る。 ・平行移動の性質をもとにして、ある図形を平行移動させた図形をかく。 [用語・記号] 直線AB、線分AB、半直線AB、△ABC、平行移動、//	○平行移動の意味とその性質を理解し、ある図形を平行移動させた図形をかくことができる。 ○平面図形に関する用語や記号の意味と使い方を理解している。		
		3	回転移動の意味とその性質を理解する。	・正六角形の模様の中の2つの図形の関係を移動の見方で観察し、回転移動について知る。 ・回転移動の性質をもとにして、ある図形を回転移動させた図形をかく。 ・点対称な図形を回転移動の見方で捉える。 [用語・記号] 回転移動、回転の中心、∠AOB	○回転移動の意味とその性質を理解し、ある図形を回転移動させた図形をかくことができる。 ○平面図形に関する用語や記号の意味と使い方を理解している。		

		4	対称移動の意味とその性質を理解する。	- 正六角形の模様の中の2つの図形の関係を移動の見方で観察し、対称移動について知る。 - 対称移動の性質をもとにして、ある図形を対称移動させた図形をかく。 - 線対称な図形を対称移動の見方で捉える。 [用語・記号] 対称移動、対称の軸、垂線、⊥、中点、垂直二等分線	○対称移動の意味とその性質を理解し、ある図形を対称移動させた図形をかくことができる。 ○平面図形に関する用語や記号の意味と使い方を理解している。		
		5	2つの合同な図形の関係を移動の見方で捉え、説明することができる。	- 正六角形の模様の中の2つの図形の関係を移動の見方で観察し、その移動の方法を平行移動、回転移動、対称移動を用いて説明する。 - 図形の合同の意味を確認する。		○2つの合同な図形の関係を移動の見方で捉え、説明することができる。	○図形の移動を用いて、平面図形の関係を捉えることのよさに気づき、学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
	基本の問題 (教科書 p. 168)	6					
2 基本の作図	正六角形を正確にかくには？ (教科書 p. 169)	7	作図における定規とコンパスの役割と使い方を理解し、簡単な作図ができる。	- 定規とコンパスを使って正六角形をかき、それがかかるわけを説明する。 - 作図における定規とコンパスの役割と使い方を知り、簡単な作図をする。 [用語・記号] 弧AB、弧の記号、弦	○作図における定規とコンパスの役割と使い方を理解し、簡単な作図ができる。 ○円に関する用語や記号の意味と使い方を理解している。	○正六角形がかかる理由を、コンパスの役割に着目して考え、説明することができる。	○定規とコンパスだけを使って、どんな図形がかかるかを考えようとしている。
	1 作図のしかた (教科書 p. 170)						
	2 基本の作図 (教科書 p. 171～178)	8	基本的な作図の方法を考えるために、交わる2つの円の性質を理解する。	・基本的な作図の方法を考えるために、交わる2つの円の性質について調べる。	○交わる2つの円の性質を理解している。	○交わる2つの円の性質を見だし、説明することができる。	
		9	垂線を作図する方法を理解し、作図することができる。	- 垂線を作図する方法を、線対称な図形の性質をもとにして考える。 - 点と直線との距離、平行な2直線の距離の意味を知る。	○垂線を作図する方法を理解し、作図することができる。 ○点と直線との距離、平行な2直線の距離の意味を理解している。		○基本的な作図の方法を、線対称な図形の性質をもとにして考えようとしている。
		10	線分の垂直二等分線を作図する方法を理解し、作図することができる。	- 線分の垂直二等分線を作図する方法を、線対称な図形の性質をもとにして考える。 2点から等距離にある点は、線分の垂直二等分線上にあることを知る。	○線分の垂直二等分線を作図する方法を理解し、作図することができる。 ○2点から等距離にある点は、線分の垂直二等分線上にあることを理解している。		
		11	角の二等分線を作図する方法を理解し、作図することができる。また、直線上の点を通り、その直線に垂直な直線を作図する方法を考え、説明することができる。	- 角の二等分線を作図する方法を、線対称な図形の性質をもとにして考える。 - 角の2辺までの距離が等しい点は、その角の二等分線上にあることを知る。 - 直線上の点を通り、その直線に垂直な直線を作図する方法を考える。 [用語・記号] (角の) 二等分線	○角の二等分線を作図する方法を理解し、作図することができる。 ○角の2辺までの距離が等しい点は、その角の二等分線上にあることを理解している。	○直線上の点を通り、その直線に垂直な直線を作図する方法を考え、説明することができる。	

	3 いろいろな作図 (教科書 p. 179～180)	12	基本的な作図を利用して、円の接線やいろいろな条件をみたす図形を作図することができる。	・円の接線、接点の意味と円の接線の性質を知る。 ・基本的な作図を利用して、円の接線やいろいろな条件をみたす図形を作図する。 [用語・記号] 接する、接線、接点	○円の接線、接点の意味と円の接線の性質を理解している。	○基本的な作図を利用して、円の接線やいろいろな条件をみたす図形を作図する方法を考え、説明することができる。	○平面図形の性質を捉えることのよさに気づき、基本的な作図を生活や学習に生かそうとしている。
	基本の問題 (教科書 p. 180)	13					
	いろいろな角を作図してみよう (教科書 p. 181～182)	14	基本的な作図を利用して 75° の角を作図する方法を考え、式や図を使って説明することができる。	・基本的な作図を利用して 75° の角を作図する方法を考え、式や図を使って説明する。 ・複数の作図の方法を比べて、同じところやちがうところを話し合う。		○基本的な作図を利用して 75° の角を作図する方法を考え、説明することができる。	○作図について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○基本的な作図を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
3 おうぎ形	ケーキを 3 等分するには？ (教科書 p. 183～184)	15	身のまわりにあるものを円とみなして、その円を等分してできるおうぎ形に着目し、弧の長さや面積が中心角に比例することを理解する。	・ケーキを円とみなして、その円を 3 等分する方法を考え、その方法で円を 3 等分できる理由を説明する。 ・おうぎ形の中心角が 2 倍、3 倍になると、弧の長さや面積がそれぞれ何倍になるかを調べる。 [用語・記号] おうぎ形、中心角	○おうぎ形と中心角の意味を理解している。 ○おうぎ形の弧の長さや面積が中心角に比例することを理解している。	○円が 3 等分できる理由を説明することができる。	○おうぎ形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
	1 おうぎ形 (教科書 p. 184～185)	16	おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。	・おうぎ形の弧の長さや面積の求め方を、中心角に比例することをもとにして考える。 ・おうぎ形の弧の長さや面積を求める。	○おうぎ形の弧の長さや面積が中心角に比例することをもとにして、おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。		
章の問題 A (教科書 p. 188)		17					

1 直線や平面の位置関係 (教科書 p. 198～203)	5	空間内にある平面と平面、直線と平面、直線と直線の位置関係を理解する。	- 空間内にある平面と平面の位置関係を分類し、交線の意味を知る。 - 空間内にある直線と平面の位置関係を分類する。 - 空間内にある直線と直線の位置関係を分類し、ねじれの位置にあることの意味を知る。 [用語・記号] 交線、ねじれの位置にある	○空間内にある平面と平面の位置関係や交線の意味を理解している。 ○空間内にある直線と平面の位置関係を理解している。 ○空間内にある直線と直線の位置関係やねじれの位置にあることの意味を理解している。	○平行な 2 つの平面に 1 つの平面が交わってできる交線の関係が、平行であると捉えることができる。	
	6	空間内にある直線と平面の垂直、平面と平面のつくる角を理解する。	- 空間内にある直線と平面の垂直について考える。 - 空間内にある平面と平面のつくる角について考える。 - 点と平面との距離、平面と平面との距離の意味を知る。	○空間内にある直線と平面の垂直を理解している。 ○空間内にある平面と平面のつくる角を理解している。 ○点と平面との距離、平面と平面との距離の意味を理解している。	○空間内にある直線と平面が垂直であることを確かめる方法を、説明することができる。 ○空間内にある平面と平面のつくる角の決め方を、説明することができる。	
2 面の動き (教科書 p. 204～206)	7	角柱や円柱、円錐、球などを、平面図形の移動によってできた立体とみることができる。	- 面をその面と垂直な方向に動かしてできる立体について考える。 - 長方形や直角三角形を空間で回転させてできる立体について考える。 - 母線、回転体の意味を知る。 [用語・記号] 母線、回転体	○母線、回転体の意味を理解している。 ○平面図形の移動によってできる立体の見取図をかくことができる。	○空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものと捉えることができる。	○空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものと捉えようとしている。
3 立体の展開図 (教科書 p. 207～209)	8	角柱、円柱の展開図とその特徴を理解する。	- 円柱と正三角柱の側面にかけたひものようにす展開図に表し、どちらが短いかを考える。 - 角柱や円柱の展開図で、側面になる長方形の横の長さは、底面の多角形や円の周の長さに等しいことを確かめ、それらの長さを求める。	○角柱や円柱の展開図とその特徴を理解している。 ○角柱や円柱の展開図で、側面になる長方形の横の長さを求めることができる。	○立体を展開図に表して、面の実際の形や長さの関係を捉えることができる。	○空間図形を平面上に表現して、平面上の表現から空間図形の性質を見いだそうとしている。
	9	角錐、円錐の展開図とその特徴を理解する。	- 正四角錐の展開図をかくて、その特徴を調べる。 - 底面が正多角形の角錐で、底面の辺の数を増やしていくと、その展開図はどうなるかを考える。 - 円錐の展開図で、側面になるおうぎ形の弧の長さは底面の円周に等しいことを確かめ、その長さを求める。	○角錐の展開図をかくことができる。 ○角錐や円錐の展開図とその特徴を理解している。 ○円錐の展開図で、側面になるおうぎ形の弧の長さを求めることができる。	○底面が正多角形の角錐で、その底面の辺の数を増やしていくと、その展開図は円錐の展開図に近づくと捉えることができる。	
	10	円錐の展開図で、側面になるおうぎ形の中心角を求め、展開図をかくことができる。	- 円錐の展開図をかくために、側面になるおうぎ形の中心角を求める。 - 円錐の展開図をかく。	○円錐の展開図で、側面になるおうぎ形の中心角を求めることができる。 ○円錐の展開図をかくことができる。	○円錐の展開図で、側面になるおうぎ形の中心角を求める方法を考え、説明することができる。	

	4 立体の投影図 (教科書 p. 210～211)	11	投影図の意味を理解し、立体の投影図から、その立体を読みとったり、投影図に立体のどの部分の実際の長さがあらわれるかを考え、説明したりすることができる。	・平面に図をかいて、円錐の高さを調べる方法について考える。 ・投影図の意味と立体の投影図のかき方を知る。 ・立体の投影図から、その立体を読みとったり、投影図に立体のどの部分の実際の長さがあらわれるかを考えたりする。 [用語・記号] 投影図	○投影図の意味と立体の投影図のかき方を理解している。 ○立体の投影図から、その立体を読みとることができる。	○投影図に立体のどの部分の実際の長さがあらわれるかを考え、説明することができる。	○空間図形を平面上に表すことのよさに気づいている。	
	基本の問題 (教科書 p. 212)	12						
3 立体の体積と表面積	広いのはどちらのテント？ (教科書 p. 213)	13	角柱や円柱の体積の求め方を理解し、それらを求めることができる。	・2つのテントを三角柱と三角錐とみなして、体積の求め方を考える。 ・算数で学習した角柱や円柱の体積の求め方を、底面の多角形や円をその面と垂直な方向に高さの分だけ動かした立体とみることと関連づけて捉え直す。 ・角柱や円柱の体積を求める。	○角柱や円柱の体積の求め方を理解し、それらを求めることができる。		○空間図形の体積や表面積の求め方を考えようとしている。 ○空間図形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。	
	1 体積 (教科書 p. 214～216)							14
	2 表面積 (教科書 p. 217～218)	15	角柱や円柱、円錐の表面積の求め方を理解し、それらを求めることができる。	・階段の形をした立体の表面積の求め方を考える。 ・円柱の表面積の求め方を、展開図をもとにして考える。 ・角柱や円柱の表面積を求める。 ・円錐の表面積の求め方を、展開図をもとにして考える。 ・円錐の表面積を求める。 [用語・記号] 表面積、底面積、側面積	○角柱や円柱、円錐の表面積の求め方を理解し、それらを求めることができる。	○角柱や円柱、円錐の表面積の求め方を、展開図をもとにして考え、説明することができる。 ○2つのテントのうち、どちらの表面積が大きいかを考察し、説明することができる。		
	3 球の体積と表面積 (教科書 p. 219～221)							16
	基本の問題 (教科書 p. 221)	17						
	章の問題 A (教科書 p. 222)		18					

7 章 データを活用して判断しよう【データの分析と活用】（11 時間）

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解している。 ・累積度数、累積相対度数の必要性和意味を理解している。 ・代表値や範囲の必要性和意味を理解している。 ・コンピューターなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理することができる。 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解している。	・目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読みとり、批判的に考察し判断することができる。 ・多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読みとり表現することができる。	・ヒストグラムや相対度数のよさに気づき粘り強く考えようとしている。 ・ヒストグラムや相対度数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・ヒストグラムや相対度数を活用した問題解決の過程を振り返って検討したり、多面的に捉え考えようとしたりしている。 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率のよさに気づき粘り強く考えようとしている。 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。

毎時の評価規準

節	項	時	目標	学習活動	評価規準		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 データの整理と分析	現在のチームを分析しよう (教科書 p. 225～227)	1	既習のデータの整理や分析の方法を、問題解決に生かそうとしている。	・現在のチームの 1500m 走の記録が、優勝時のチームの記録と比べて遅くなったかどうかを調べる方法について話し合う。			○既習のデータの整理や分析の方法を、問題解決に生かそうとしている。
	1 データの分布の見た方 (教科書 p. 228～233)	2	データを度数分布表やヒストグラムに表し、分布の特徴を読みとり、説明することができる。	・現在のチームと優勝時のチームの 1500 m 走の記録を度数分布表やヒストグラム、度数折れ線に表し、それぞれの分布の特徴を読みとる。 ・階級の幅の異なる複数のヒストグラムを比較し、検討する。 [用語・記号] 累積度数、ヒストグラム、度数折れ線	○ヒストグラムや度数折れ線の必要性和意味を理解し、それらを用いてデータを整理することができる。 ○累積度数の必要性和意味を理解し、求めることができる。	○度数分布表やヒストグラムから、データの分布の特徴を読みとり、説明することができる。	○ヒストグラムや相対度数の必要性和意味を考えようとしている。
		3	相対度数の必要性和意味を理解し、2 つのデータを相対度数の折れ線に表して、分布を比較し、説明することができる。	・現在のチームと優勝時のチームの 1500 m 走の記録の相対度数を求め、折れ線に表して、2 つの分布を比較する。 ・現在のチームと優勝時のチームで、1500m 走を 6 分未満で走った生徒の割合を、累積相対度数を用いて比較する。 [用語・記号] 相対度数、累積相対度数	○相対度数の必要性和意味を理解し、求めることができる。 ○累積相対度数の必要性和意味を理解し、求めることができる。	○相対度数の折れ線から、2 つのデータの分布を比較し、説明することができる。	

	2 データの分布の特徴の表し方 (教科書 p. 234～235)	4	代表値や範囲を用いてデータの分布の傾向を読みとり、説明することができる。	・現在のチームと優勝時のチームの 1500 m走の記録の代表値や範囲を求め、それらを用いて、現在のチームの記録が優勝時のチームと比べて遅くなったといえるかどうかを説明する。 [用語・記号] 平均値、中央値（メジアン）、最頻値（モード）、範囲（レンジ）	○代表値や範囲の必要性和意味を理解し、それらを求めることができる。	○代表値や範囲を用いてデータの分布の傾向を読みとり、説明することができる。	○代表値や範囲の必要性和意味を考えようとしている。
	基本の問題 (教科書 p. 236)	5					
2 データの活用	運動時間は増えたかな？ (教科書 p. 237～238)	6	目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読みとり、批判的に考察し判断することができる。	・運動時間のデータを分析し、データの分布の傾向を適切に読みとれるようにヒストグラムに表し、その傾向を説明する。		○度数折れ線やヒストグラムから、データの分布の傾向を読みとり、批判的に考察し判断することができる。	○データを分析して問題解決する過程を生活や学習に生かそうとしている。 ○データを分析した問題解決の過程を振り返って検討したり、多面的に捉え考えようとしたりしている。
	1 データの活用 (教科書 p. 239～240)	7	データを使った問題解決の過程を振り返り、批判的に考察し判断することができる。	・データを正しく読みとることができているかを、批判的に考察し判断する。		○データを使った問題解決の過程を振り返り、批判的に考察し判断することができる。	
3 ことがらの起こりやすさ	どちらを選ぶ？ (教科書 p. 241)	8	不確定な事象の起こりやすさを、その事象の起こる割合や試行の回数に着目して考え、説明することができる。	・ホエールウォッチングで、A 社と B 社のどちらのほうがクジラと出会いやすいかを、出航回数と出会った回数のデータを用いて考え、説明する。		○不確定な事象の起こりやすさを、その事象の起こる割合や試行の回数に着目して考え、説明することができる。	○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を考えようとしている。
	1 起こりやすさの表し方 (教科書 p. 242～245)	9	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解する。	・ペットボトルキャップを投げる実験を多数回行った結果を表やグラフに整理し、表向きになる相対度数がどのように変化するかを調べる。 [用語・記号] 確率	○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解している。		
			10	多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読みとり、説明することができる。	・新入生向けに各サイズの上ばきを何足仕入れておけばよいかを、過去 3 年分のデータをもとに考え、説明する。		○多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読みとり、説明することができる。
章の問題 A (教科書 p. 246)		11					

令和7年度

台東区立浅草中学校

第1学年 理科 観点別学習状況の評価規準

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
配分		34%	33%	33%
具体的 評価資料		・テスト ・小テスト ・レポート ・課題 ・活動観察 ・提出物	・テスト ・レポート ・課題 ・提出物	・課題 ・提出物 ・レポート・発言 ・授業態度
領域	単元			
化学	身のまわりの物質	観察や実験などを通して、物質のすがた、水溶液、状態変化に関する事象・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 物質のすがた、水溶液、状態変化に関する事象・現象について観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理など、事象を科学的に探求する技能の基礎を身に付けている。	物質のすがた、水溶液、状態変化に関する事象・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行い、事象や結果を分析して解釈し、自らの考えを表現している。	物質のすがた、水溶液、状態変化に関する事象・現象に進んでかかわり、それらを科学的に探求するとともに、事象を日常生活とのかかわりでみようとする。
生物	植物の世界	観察や実験などを通して、植物・動物の仲間に関する事象・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 生物の観察、植物・動物の仲間に関する事象・現象についての観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理など、事象を科学的に探求する技能の基礎を身に付けている。	生物の観察、植物・動物の仲間に関する事象・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行い、事象や結果を分析して解釈し、自らの考えを表現している。	生物の観察、植物・動物の仲間に関する事象・現象に進んでかかわり、それを科学的に探求するとともに、生命を尊重し、自然環境の保全を寄与しようとする。
物理	身のまわりの現象	観察や実験などを通して、光と音、力と2力のつり合いに関する事象・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 光と音、力と2力のつり合いに関する事象・現象について観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理など、事象を科学的に探求する技能の基礎を身に付けている。	光と音、力と2力のつり合いに関する事象・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行い、事象や結果を分析して解釈し、自らの考えを表現している。	光と音、力と2力のつり合いに関する事象・現象に進んでかかわり、それらを科学的に探求するとともに、事象を日常生活とのかかわりでみようとする。
地学	大地の変化	観察やモデル実験などを通して、火山と地震、地層の重なりと過去の様子に関する事象・現象・自然の恵みと火山災害・地震災害についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 火山と地震、地層の重なりと過去の様子に関する事象・現象・自然の恵みと火山災害・地震災害についての観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理など、事象を科学的に探求する技能の基礎を身に付けている。	火山と地震、地層の重なりと過去の様子に関する事象・現象・自然の恵みと火山災害・地震災害の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行い、事象や結果を分析して解釈し、自らの考えを表現している。	火山と地震、地層の重なりと過去の様子に関する事象・現象・自然の恵みと火山災害・地震災害に進んでかかわり、それを科学的に探求するとともに、自然環境の保全を寄与しようとする。

【聞くこと】

目標		
●簡単な商品説明や天気予報などを聞いて、自分が必要な情報を聞き取ることができる。 ●自分の興味のある事柄についての簡単な説明（映画の予告編など）を聞いて、その大まかな内容を聞き取ることができる。 ●短く簡単なアナウンスやインタビューを聞いて、重要な情報を聞き取ることができる。		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[知識]1年生で学ぶ言語材料のきまりに関する事項を理解している。 [技能]1年生で学ぶ言語材料を活用して、日常的な話題について（はっきりと）話された文章等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、 ・簡単な商品説明や天気予報などを聞いて、必要な情報を聞き取っている。 ・自分の興味のある事柄についての簡単な説明（映画の予告編など）を聞いて、その大まかな内容を聞き取っている。 ・短く簡単なアナウンスやインタビューを聞いて、重要な情報を聞き取っている。	コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、 ・簡単な商品説明や天気予報などを聞いて、必要な情報を聞き取ろうとしている。 ・自分の興味のある事柄についての簡単な説明（映画の予告編など）を聞いて、その大まかな内容を聞き取ろうとしている。 ・短く簡単なアナウンスやインタビューを聞いて、重要な情報を聞き取ろうとしている。

【読むこと】

目標		
●チラシや観光案内などを読んで、自分が必要な情報を読み取ることができる。 ●簡単な記事や自分あてのメールを読んで、その大まかな内容を読み取ることができる。 ●写真などをたよりに短い物語を読んで、そのあらすじをつかむことができる。 ●簡単な英語で書かれたパンフレットを読んで、その重要な情報を読み取ることができる。		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[知識]1年生で学ぶ言語材料のきまりに関する事項を理解している。 [技能]1年生で学ぶ言語材料を活用して、日常的な話題について書かれた文章等を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、 ・チラシや観光案内などを読んで、自分が必要な情報を読み取っている。 ・簡単な記事や自分あてのメールを読んで、その大まかな内容を読み取っている。 ・写真などをたよりに短い物語を読んで、そのあらすじをつかんでいる。 ・簡単な英語で書かれたパンフレットを読んで、その重要な情報を読み取っている。	コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、 ・チラシや観光案内などを読んで、自分が必要な情報を読み取ろうとしている。 ・簡単な記事や自分あてのメールを読んで、その大まかな内容を読み取ろうとしている。 ・写真などをたよりに短い物語を読んで、そのあらすじをつかもうとしている。 ・簡単な英語で書かれたパンフレットを読んで、その重要な情報を読み取ろうとしている。

【話すこと（やり取り）】

目標		
●自分の持ち物や好きなことについて即興で伝え合うことができる。 ●準備をした上で、メモを見ながら、簡単なやり取りをすることができる。 ●社会的な話題について、読んだ英文の内容について、考えたことや感じたことを伝え合うことができる。		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[知識] 1年生で学ぶ言語材料のきまりに関する事項を理解している。 [技能] 日常的な話題について、1年生で学ぶ言語材料などを用いて、事実や自分の考えなどを、（即興で）伝え合う技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、 ・自分の持ち物や好きなことについて即興で伝え合っている。 ・準備をした上で、メモを見ながら、簡単なやり取りをしている。	コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、 ・自分の持ち物や好きなことについて即興で伝え合おうとしている。 ・準備をした上で、メモを見ながら、簡単なやり取りをしようとしている。

【話すこと（発表）】

目標		
●身近な人物について、即興で簡単な紹介ができる。 ●自分の興味のある事柄（好きな偉人や理想のロボットなど）について、準備した上で発表することができる。		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[知識] 1年生で学ぶ言語材料のきまりに関する事項を理解している。 [技能] 日常的な話題について、1年生で学ぶ言語材料などを用いて、事実や自分の考えなどを、（即興で）話す技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、 ・身近な人物について、即興で簡単な紹介している。 ・自分の興味のある事柄（好きな偉人や理想のロボットなど）について、準備した上で発表している。	コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、 ・身近な人物について、即興で簡単な紹介しようとしている。 ・自分の興味のある事柄（好きな偉人や理想のロボットなど）について、準備した上で発表しようとしている。

【書くこと】

目標		
●自分を紹介する短い文章を書くことができる。 ●学校行事や町について、短く簡単な記事や紹介文を書くことができる。 ●読んだ英文の内容について、考えたことや感じたこと、疑問に思ったことを書くことができる。		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[知識] 1年生で学ぶ言語材料のきまりに関する事項を理解している。 [技能] 日常的な話題について、1年生で学ぶ言語材料などを用いて、事実や自分の考えなどを正確に書く技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、 ・自分を紹介する短い文章を書いている。 ・学校行事や町について、短く簡単な記事や紹介文を書いている。	コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、 ・自分を紹介する短い文章を書こうとしている。 ・学校行事や町について、短く簡単な記事や紹介文を書こうとしている。

第1学年 音楽科 観点別学習状況の評価規準

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
配分				
具体的 評価資料		授業への取り組み 実技テスト 期末テスト	授業への取り組み 提出物 実技テスト 期末テスト	授業への取り組み態度 提出物 ワークシート 自己評価票 期末テスト
領域	単元			
表現		・音程やリズムを正確に表現することができる。 ・旋律の特徴や歌詞の美しさに関心を持ち、イメージを持って意欲的に歌うことができる。 ・箏の基本の奏法を身につけ演奏することができる。	・読譜の基礎基本を学び、音楽の用語や記号を理解し、表現として表すことができる。 ・楽曲を形づくっている要素を知覚し、意図をもった表現を工夫する。 ・伝統音楽の良さを味わうとともに邦楽器の基本奏法を身につけ音色を生かした表現ができる。 ・声域や曲想にあった響きのある発声法を身につけ表現できる。	・音楽に親しみ、音楽表現に関心を持ち、主体的に取り組むことができる。 ・クラスの仲間と協力し、合唱を創りあげようとしている。 ・音楽表現の特徴や曲想に関心を持ち、表現活動をすることに意欲的に取り組むことができる。
鑑賞		・作曲者や時代背景について理解を深め、良さや美しさを味わって聴くことができる。	・多様な楽曲を鑑賞し、形づくっている音楽的な要素や特徴を知覚し、言葉で表現できる。 ・楽曲の雰囲気や曲想を感受し、感想として表現できる。	・多様な音楽に関心を持ちながら、特徴や曲想などに関心を持ち、意欲的に鑑賞活動に取り組み、楽曲のよさや美しさを味わうことができる。

第1学年 美術 観点別学習状況の評価規準

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
配分				
具体的 評価資料		授業への取り組み・姿勢、作業場面での様子、作品、定期考査	授業への取り組み・姿勢、作業場面での様子、ワークシート、作品、定期考査	授業への取り組み・姿勢、作業場面での様子、鑑賞、提出物、定期考査
領域	単元			
鑑賞	デザイン・彫刻・工芸		過去から現代に続く、大きな歴史に思いを馳せ、美術文化や作品を理解し、美術について関心を持ち、自分なりの考えを持って、素直な感想を述べようとする。	表現したり鑑賞する楽しさを感じながら、自分なりに味わいながら、美術に対する興味・関心・意欲を高める。 自他の作品に関心を持ち、制作した人々の思いや願いを想像することができ、人間と造形の関わりについての意味を考えることができる。
表現	絵画・彫刻	造形的に美しい形を創造でき、鉛筆の濃淡を効果的に工夫して立体感を表すことができる。 対象の持つ形や色や材質の特徴を観察し、鉛筆の濃淡の技法を工夫して、材質感や立体感を表すことができる。	対象の持つ形の特徴を受け止め、視点や構図を工夫して、画面に取り入れることができる。	対象の持つ色や形からそのおもしろさを発見し新鮮な気持ちを持って表そうとする。 見慣れた物にも形や色や材質のおもしろさや特徴があることに興味を持ち、意識的に観察でき粘り強く作品を仕上げようとする
	デザイン（色彩）	色彩の持つ性質や特性を生かして、思い通りの配色を工夫し、むらなく彩色する。	色彩の持つ性質や特性を生かして、意図にあった配色ができる。	色の持つ性質や特性を知り、色から受ける感動や表現効果に対して興味や関心を持とうとする。
	デザイン（平面）	構成やレタリングの持つ効果を理解し、しっかりと土台を構築でき、計画的に制作を進めることができる。	伝達するための機能や表現効果などを考え、総合的に構想することができる。	情報伝達のデザインが他者に思いや情報を伝えることをつねに念頭に置き、それを美しく読みやすい文字のデザインに生かそうとする。
	工芸	用途や機能、使用する者の気持ちを考え、自己の表現したい内容と他者への思いやりの心に基づいて創意工夫して表現する。	材料の持つ性質や特質を理解し、自ら自分らしい発想をすることができる。	下絵づくりから成形、仕上げまで根気よく制作しようすることができる。 生活の中に美術が様々に用いられていることや、美と機能性との関わりに気づき、その働きについて理解する。

第1学年 技術家庭科観点別学習状況の評価規準

評価の観点 配分		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
具体的 評価資料		・定期考査 ・作業、作品、課題 ・課題提出の内容	・定期考査 ・作業、作品、課題 ・振り返りシート ・課題提出の内容	・定期考査 ・授業態度、意欲・忘れ物・発言 ・作業、課題へ取り組む姿勢 ・振り返りシート ・課題提出の内容
領域	単元	技術家庭科共通事項 振り返りシートに必要な事項を丁寧にまとめ提出物を提出期限までに出している。 ・毎授業の板書事項を丁寧にまとめる。・忘れ物をしない。 ・意欲を持って学習している。		
	材料と加工の技術	・身の回りの製品に生かされている材料の特性と材料に適した加工方法について理解している。 ・木材、金属、プラスチックなどの特性と特性を生かした利用方法について理解している。 ・安全・適切な製作や検査・修正をすることができる技能を身に付けている。 ・材料と加工の技術の概念について理解している。	・「技術の見方・考え方」を働かせて、問題を発見し、自分なりの課題を設定する力を身に付けている。 ・材料の選択や成形の方法などを構想し、設計を具体化する力を身に付けている。 ・構想に基づいて、製作の計画を立てることができる力を身に付けている。 ・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、材料と加工の技術を評価し、適切な選択、管理・運用、改良、応用について考えている。	・主体的に材料と加工の技術について考えようとしている。 ・自分なりの新しい考え方や捉え方によって、知的財産を創造するとともに、他者のアイディアを尊重し、それらを保護・活用しようとしている。 ・他者と協働して、粘り強く取り組もうとしている。 ・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、材料と加工の技術を工夫し創造しようとしている。
	情報の技術	・情報の表現や記録ができる仕組みを理解している。 ・情報社会のモラルの重要性を理解し、適切なモラルを理解する。	・情報の特性を理解し、情報社会について自分なりの考えを持つことができている。	・主体的に情報の技術について考えようとしている。 ・情報が釈迦愛に与える影響を理解して、望ましい情報社会のために取るべき態度を身に付けようとしている。 ・情報の安全を確保するために必要な判断や対応をする力を身に付けようとしている。 ・主体的に情報の技術について考えようとしている。
家庭科	家族・	・一人一人の生活の自立や家族と家庭生活を工夫していく必要性を理解する。	3年間の学習の見通しをつける	・自分の生活を振り返り、生活について関心をもっている。
	（衣生活と自立） （衣服の選択と手入）	・衣服のはたらきを理解している。 ・布の構造や材料の特徴を理解している。 ・表示の意味を理解している。 ・既製服についている表示を理解し、衣服の選択に生かす。 ・衣服の材料に応じた手入れや補修ができるようにする。	・衣服のはたらきをふまえて、目的に応じたそれぞれの場に合ったふさわしい衣服の着方を工夫する。	・衣服の選択や手入れについて、関心をもって学習している。
	（衣生活と工夫）	・作業を計画的に実施できる。 ・ミシンや裁縫道具を目的に合わせて、適切に使用することができる。 ・作品製作の手順を理解している。 ・裁縫道具の安全管理や使用方法について理解している。	・布などの材料を用いて、生活を豊かにするための作品を工夫して製作する。	・衣服に関心をもち、布などを用いて作品を作ろうとしている。
	消費者	消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。	自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現に向けて、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

評価の観点		知識	技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
配分		33%	33%	33%	33%
具体的 評価資料		・ペーパーテスト ・授業ワークシート	・実技テスト ・授業内観察	・ペーパーテスト ・グループでの話し合い ・授業ワークシート(レポート)	・自ら学ぶ態度 ・自らの学習状況の把握 ・自己調整
領域	単元	【共通項目】 1. 保健体育に関心を持ち積極的意欲を持って参加している。 2. 健康に留意し見学をしないで授業に参加している。 3. 各種目を通して公正・協力・責任などの態度を身につける。 4. 進んで各種目に積極的に取り組もうとしている。 5. 常に安全を心がけ、身だしなみなどに配慮している。			
体育	体 つ く り 運 動	○ラジオ体操・新体力テスト・運動会学年種目 1. 体づくり運動の意義には、心と体をほぐし、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことについて理解している。	1. のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行うことを通じて、気付いたり関わり合うことができる。 2. 仲間と動きを合わせたり、対応したりする運動を行うことを通して、気付いたり関わり合ったりすることができる。	1. 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	【共通項目】 1. 学習に積極的に取り組もうとしている。 2. 勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとしている。 3. 用具等の準備や後片付け、記録などの分担した役割を果たそうとしている。 4. 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。 5. 健康・安全を確保している。
	器 械 運 動	○バスケットボール・バレーボール・サッカー・ハンドボール・ソフトボール、アルティメット 1. 集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わうこと特性があることを理解している。 2. 各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるポイントがあることを理解している。	1. ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。(ゴール型) 2. サービスでは、ボールの中心付近で捉えることができる。(ネット型) 3. 地面と水平になるようにバットを振り抜くことができる。(ベースボール型)	【共通項目】 1. 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えようとしている。 2. 学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 3. 体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や競争を行う方法を見付け、仲間に伝えている。	
	陸 上 競 技	○短距離走・長距離走・走り幅跳び・走り高跳び・リレー 1. 自己の記録に挑戦したり、競争したりする楽しさや喜びを味わうことができる。 2. 各種目において用いられる技術の名称があり、それぞれの技術での動きのポイントを理解している。	1. クラウチングスタートから徐々に上体を起こしていき加速することができる。(短距離走) 2. 自己に適した距離、又は歩数の助走をすることができる。(走り幅跳び) 3. リズミカルな助走から力強い踏み切りに移ることができる。(走り高跳び)		
	水 泳	○クロール・平泳ぎ・背泳ぎ 1. 泳法を身に付け、続けて長く泳いだり、早く泳いだり、競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことを理解している。 2. それぞれの種目で主として高まる体力要素が異なることを理解している。	1. 一定のリズムで強いキックを打つことができる。(クロール) 2. 蹴り終わりで長く伸びるキックをすることができる。(平泳ぎ) 3. 水中で両足あるいは左右どちらかの足をプールの壁につけた姿勢から、スタートの合図と同時に顔を水中に沈め、抵抗の少ない流線型の姿勢をとって壁を蹴り泳ぎだすことができる。(スタート)		
	球 技	○マット運動・跳び箱運動 1. 器械運動には多くの「技」があり、これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことを理解している。 2. 運動の基本形態を示す名称と、運動の経過における課題を示す名称によって名づけられていることを理解している。	1. 開始姿勢や終末姿勢、組合せの動きや手の着き方などの条件を変えて回ることができる。(マット) 2. 踏み切りから上体を前方に振り込みながら着手するための動き方、突き放しによって直立体勢に戻して着地するための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして跳び越すことができる。(跳び箱)		
	ダ ン ス	○ソーラン節・よっちゃれ・現代的なリズムのダンス 1. 仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを捉えて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことができる。	1. 小道具を操作する踊りでは、曲調・手足の動きを一致させて、にぎやかな掛け声と歯切れのよい動きで踊ることができる。 2. 軽快なリズムに乗って弾みながら、揺れる、回る、ステップを踏んで手をたたき、ストップを入れるなどリズムを捉えて自由に踊ったり、相手の動きに合わせてたりずらしたり、手をつなぐなど相手と対応しながら踊ることができる。		
	武 道	○柔道 1. 対人的な技能を基にした運動で、我が国固有の文化であることを理解している。 2. 技能の習得を通じて、人間形成を図るという伝統的な考え方を理解している。	1. 姿勢と組み方では、相手の動きに応じやすい自然体で組むことができる。(柔道) 2. 後ろ受け身では、あごを引き、頭をあげ、両方の腕全体で畳を強くたたきことができる。(柔道)		
保健	保健	個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けることができる。		健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養おうとしている。	生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養おうとしている。